

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		言語比較論 Comparative Language Studies				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋藤 治之	
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	火3		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
[授業の概要・目的]									
諸言語を比較する方法の習得を目指すと同時に、言語変化の法則性とメカニズムについて考究する。さらに、言語理論史に関する知識を深める。									
[到達目標]									
比較言語学の基本的な事柄を理解する。									
[授業計画と内容]									
印欧語の世界を視野に収めながら、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。史的言語学の諸分野(音論、形態論、統語論等の諸領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。比較言語学的方法と併せて、言語の理論的考究による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。言語類型論なアプローチ等により、ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。以上のような立場から、言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。 今年度は印欧語比較研究言語学の概説を下記の項目に関して行う： 1．インド・ヨーロッパ語比較研究の歴史 2．インド・ヨーロッパ語の分類 3．インド・ヨーロッパ語の音韻 4．インド・ヨーロッパ語の形態 5．インド・ヨーロッパ語の統語 6．インド・ヨーロッパ語の語彙 7．インド・ヨーロッパ語族と他の語族 8．まとめ									
各項目につき1～2回前後の授業で取り組む予定である。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・観点]									
平常点(50%)・レポート(50%)に基づく総合評価による。									
[教科書]									
プリントをこちらで準備・配布する。									
[参考書等]									
(参考書) James Clackson 『Indo-European Linguistics』(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-65367-1 専門的知識は必要としないが、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語などヨ									
----- 言語比較論(2)へ続く↓↓↓ -----									

言語比較論(2)

ヨーロッパの言語を一通り学習することが望ましい。しかしアラビア語、などインド・ヨーロッパ語以外の言語を学んだ者でも、方法論の習得という観点から歓迎する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する文献に目を通すこと。

[その他（オフィスアワー等）]

* オフィスアワーの実施の有無は、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]